

翻訳 (1)

M. E. シュヴルール著
色彩の同時対比の法則とその応用

De la Loi du Contraste Simultané des Couleurs,
et de ses Applications.
Paris, 1839.

小林 光夫 Mituo Kobayasi 電気通信大学名誉教授

1. はじめに

本号から数回にわたり、ミシェル=ウジェーヌ・シュヴルール (Michel-Eugène Chevreul, 1776-1889) の手になる色彩学の大著「色彩の同時対比の法則とその応用」を、仏語原著1839年版(初版)より訳出し、紹介する。

本書をきっかけに、その後シュヴルールの色彩研究は広く世に知られることとなるが、本書のとくに美術界に与えた影響は大きい。出版翌年には独語訳、1854年にはC. Martelによる英語訳、さらに1857年にはJ. Spantonによる英語訳が出版された。Martel訳は版を重ね、これをもとにF. Birrenが解説を付した英語版(1967年, 1987年)は、世界中で広く読まれている。ただし、Martel訳は仏語からの直訳であり、もともとシュヴルールの仏語表現も長文で難解であることから、正しい理解が浸透しているとは言えない。Spanton訳は分かりやすいが抄訳であり、またあまり知られていない。

シュヴルールに関する邦書は、Martel訳あるいはBirren解説付きからの翻訳抜粋がほとんどであり、仏語原著からの訳出はいまだ見たことがない。なお、Martel訳をもとに、訳者独自の解釈を加えた邦書[8]が出版されていることを付記する。

筆者は、故あって1998年頃からシュヴルールの色彩関連書に接する機会が多く、読書のうちにシュヴルールの科学的発想や探究姿勢に触れ、シュヴルールの色彩論の正しい理解のためにも、原著からの訳出の必要性を強く感じた。幸い仏語に堪能な宮崎敬子氏 (Color Station) の協力が得られることとなり、ここに訳出を試みることとした次第である。シュヴルールの色彩関

連文献については、以前に本誌 vol.28, no.1 (2004) [1] に紹介したので、参考に使いたい。その後本誌に掲載したシュヴルール関連の記事[2-7]も合わせて参考文献に挙げる。

2. 本書の形態と構成

1839年の初版本は、735ページの本文および15ページの付物からなる寸法21cm×13cmの主本と、37葉の色刷り図版、3葉の白黒図版、および文字の印刷された色紙9枚からなる寸法28.5cm×23cmの別本の、2冊構成である。なお、初版から50年後(1889年、シュヴルール103歳)にフランス革命100周年記念版として出版された第2版、およびシュヴルール没後80年に出版された復刻版では、図版は本文に組み込まれている。

本書の文章構成は、構成要素の名付けが現代の書物とは違う。下記の左側に示すように、最大構成要素 partie から始まり、division, section, chapitre, ... と続くかなり深い階層構造をもつ。邦訳でこれをどう置き換えるか悩んだが、日本国語大辞典(小学館)を参照のうえ、下記の右側のように置き換えた(もとはロドリゲス日本大文典による)。

Partie I	第I巻
Division II	第II部
Section III	第3編
[Sous Section I]	[第1小編]
Chapitre II	第2章
§ 3	§ 3
Article 4	(4)

このほか本文には、パラグラフ(段落)ごとに、通しでパラグラフ番号が付してある。この番号は、1から1010に及ぶ。

本書には、上記の構造に従った詳細な目次がある。仏語の書物の通例に従い、本書でも目次は巻末に付されているが、読者にはまず本書の全体像を知るのが良くと考え、次ページ以降に掲載する。

目次の各項目に丸カッコに入れて添えた数はパラグラフ番号である。また、図版を参照している項目の右側には、その図版番号などを付記した。

3 本書の内容と訳出部分

本書の書名は、ふつう「色彩の同時対比の法則とその応用 (De la loi du contraste simultané des couleurs et de ses applications)」のように表記されるが、正式には原著の扉(下に写真を示す)にあるようにたいへん長く、直訳すれば

「色彩の同時対比の法則、およびその法則に基づき、絵画、ゴブランのタペストリー、ボーヴェの調度用タペストリー、カーペット、モザイク、彩色ステンドグラス、印刷、彩色図版、建築装飾、服装、園芸、に関して考察した、着色物の組合せについて」となる。

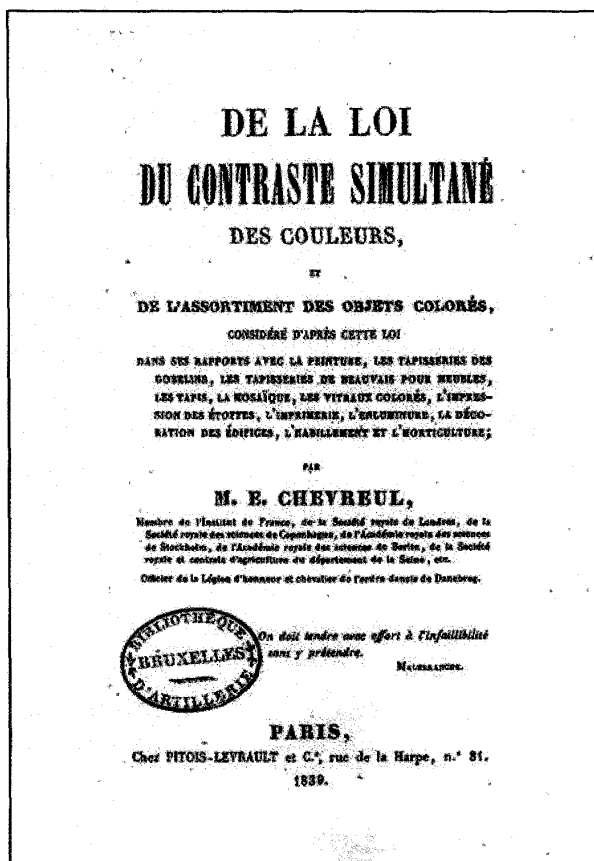
書名や目次から分かるように、本書の内容は、色彩の対比や調和に関する基本概念(第I巻)と色を定めるための色体系(第II巻の予備概念)からなる理論、色を使う様々な分野におけるその応用(第II巻第I～V部)、およびまとめと考察(第II巻第VI部)に大別される。今後、本書の構成順にしたがって、訳出を行う。始めの理論部分と最後のまとめ・考察部分は全訳を、応用部分は、図版を参照している箇所を中心に部分訳を行うつもりである。

なお、Martelの英訳版は、白黒図版以外の図版が仏語原著とはすべて異なっている。また、第II巻第VI部を第III巻として独立して扱っている。Birren版は、Martel版から第II巻の第IV部と第V部を欠いている以外は、Martel版とほぼ同じである。

訳語については、外来語で日本語として定着している語(英語でも)はそのままにすることとした。たとえば、tapisserieはタピスリでなくタペストリーなど。また、シュヴルールの用語使いを保つように、若干違和感のある直訳的な表現をした箇所もある。

参考文献

- [1] 松田陽子, 高橋みのり, 宮崎敬子: シュヴルールの遺産, 日本色彩学会関東支部報告, 日本色彩学会誌, vol.28, no.1, pp.44-49 (2004).
- [2] 小林光夫, 吉識香代子: Chevreulの色立体の再現, 日本色彩学会誌, vol.27, suppl., pp.34-35 (2003).
- [3] 小林光夫, 吉識香代子: Chevreulの色空間一色図(1864年版)の測色値にもとづく構成一, 日本色彩学会誌, vol.28, suppl., pp.119-120 (2004).
- [4] 小林光夫, 吉田慶子, 吉識香代子: Chevreulの色図(1864年版)の測色的分析, 日本色彩学会誌, vol.28, suppl., pp.132-133 (2004).
- [5] 小林光夫, 高橋みのり: Chevreulの色彩対比論再考一英訳版図版にもとづいて一, 日本色彩学会誌, vol.31, suppl., pp.124-125 (2007).
- [6] 小林光夫, 宮崎敬子: Chevreulの色彩調和論再考一仏語版図版にもとづいて一, 日本色彩学会誌, vol.31, suppl., pp.126-127 (2007).
- [7] 小林光夫訳(下訳: 宮崎敬子): E. シュヴルール著, 色彩—その工芸への応用/色相環を利用して, 日本色彩学会誌, vol.34, no.4, pp.364-371 (2010) および vol.35, no.1, pp.41-52 (2011).
- [8] シュヴルール著, 佐藤邦夫訳: シュヴルール色彩の調和と配色のすべて, 青娥書房, 2009.



《目次》

前書き

第Ⅰ巻 色彩の同時対比の法則の科学的なまたは理論的な見方

予備概念 (1-7)

第1編 色彩の同時対比の法則とその実験による提示

第1章 色彩の同時対比現象を観察する方法 (8-15)

同時対比の定義 (8)

色調対比の実験による提示 (9-12)

図版1 (白黒) 明暗対比 (9-12)

色相對比の実験による提示 (13-14)

できるだけ強さを揃えた色による実験 (15)

第2章 色彩の同時対比の法則とその法則を表す公式 (16-19)

第3章 有彩色の並置により示す色彩の同時対比の法則 (20-43)

図版2,3 同時対比 (43)

第4章 有彩色と白との並置 (44-52)

第5章 有彩色と黒との並置 (53-62)

第6章 有彩色と灰色との並置 (63-70)

第7章 着色物の化学的性質は同時対比現象に影響を及ぼさない (71)

第8章 同じ色光グループに属する色の並置 (72-75)

第9章 赤, 黄, 青だけを原色とし, 橙, 緑, 藍, 紫を複合色とする仮説における同時対比の法則の適用 (76)

第2編 色彩の同時対比, 継時対比, 混合対比の差違, および著者の実験と他の物理学者による以前の実験の報告

第1章 色彩の同時対比, 継時対比, 混合対比の差違 (77-119)

第2章 著者の実験と他の物理学者による以前の実験の報告 (120-132)

第3編 著者の実験以前に報告された色彩の同時対比現象の生理的要因

単一章 色彩の対比現象を生じる生理的要因 (133-142)

第Ⅱ巻 応用の観点からみた色彩の同時対比の法則

序言 (143-144)

予備概念 (145-254)

§1 色調, 色階, ニュアンスの定義 (146-155)

§2 色の定義とその変化を表すための色立体について (156-173)

図版4 (白黒) 色立体 (159)

§3 色彩の調和 (174-180)

状況1 単色の場合 (175)

状況2 同一色相で異なる色調の場合 (176)

状況3 隣接色相に属す色が, 対比に従って組み合わせられた場合 (177)

状況4 かなり離れた色相に属す差異の大きい色が, 対比に従って組み合わせられた場合 (178)

状況5 ある程度良い組合せの種々の色を, 薄く着色したガラスを通して見た場合 (179)

種別1 類似 (アナロジー) の調和 (180)

種別2 対比 (コントラスト) の調和 (180)

§4 赤, 橙, 黄, 緑, 青, 紫と白, 黒, 灰との配色 (181-254)

(1) 有彩色と白 (185-201)

図版5 ~ 29 (3おき) 有彩色と白の配色 (185-201)

A 2色の組合せ (185)

B 補色と白の3色の組合せ (186-189)

C 補色ではない2色と白の3色の組合せ (190-201)

(2) 有彩色と黒 (202-218)

図版6 ~ 30 (3おき) 有彩色と黒の配色 (203-218)

- A 2色の組合せ (203)
- B 補色と黒の3色の組合せ (204-206)
- C 補色ではない2色と黒の3色の組合せ (207-218)
- (3) 有彩色と灰 (219-254) 図版7～31 (3おき) 有彩色と灰の配色 (219-235)
 - A 2色の組合せ (220)
 - B 補色と灰色の3色の組合せ (221-223)
 - C 補色ではない2色と灰色の3色の組合せ (224-235)
- 上記の観察の要約 (236-254)

第I部 いわば無限に細分可能な色材による着色物の模倣

序言 (255-258)

第1編 明暗法 (clair-obscur) による絵画

第1章 対象物の色 (259-260)

- (1) 色光により生じる変化 (261-269)
- (2) 強さの異なる2つの色光による変化 (270-280) 図版32 (白黒) 光の影響 (271-333)
- (3) 見る人の目に対してすべての面が同じ位置にない表面から放射される拡散昼光により生じる色の变化 (281-298)

第2章 画家とは異なる視点から見た着色物と、画家によるその模倣との差異 (299-300)

第2編 一様彩色法 (teintes plates) による絵画

単一章 一様彩色法による絵画 (301-304)

第3編 絵画における配色

第1章 絵画における配色という語の慣用的なさまざまな意味 (305-306)

- (1) 白色光と陰影に対する空気遠近法を考慮した配色 (307)
- (2) さまざまな色光に対する空気遠近法を考慮した配色 (308-312)
- (3) 固有色の調和および絵のさまざまな構成色の調和を考慮した配色 (313-322)

第2章 色彩の同時対比の法則の配色への利用 (323)

- (1) 対象物の光の変化を早く確実に発見するための法則の利用 (324-328)
- (2) 対象物の光の変化を早く確実に模倣するための法則の利用 (329-342)
- (3) 固有色の再現を考慮に入れつつ絵の構成色を調和させるための法則の利用 (343-366)

第II部 大きさの見分けられる色材による着色物の模倣

序言 (367-371)

第1編 ゴブランのタペストリー

第1章 ゴブランのタペストリーの要素 (372-375)

第2章 ゴブランのタペストリー織技法における色系混合の原理 (376-380)

第3章 ゴブランのタペストリー織技法における対比の原理 (381-388)

第4章 ゴブランのタペストリーの模範に求められる品質 (389-392)

第2編 ボーヴェの調度用タペストリー

第1章 ボーヴェの調度用タペストリーの要素 (393-394)

第2章 ボーヴェの調度用タペストリーに使われる主題 (395)

第3章 ボーヴェの調度用タペストリーの模範 (396-398)

第3編 サヴォヌリのカーペット

第1章 サヴォヌリのカーペットの要素 (399-403)

第2章 サヴォヌリのカーペット制作における色彩混合の原理 (404-405)

第3章 サヴォヌリのカーペット制作における色彩対比の原理 (406)

第4章 サヴォスリのカーペットの模範が満たすべき条件 (407-420)

- (1) 条件1 形ある物のそれぞれの面積 (408-409)
- (2) 条件2 明視性 (410-413)
- (3) 条件3 場所あるいは人との共通性 (414)
- (4) 条件4 色の配置 (415-418)
- (5) 条件5 室内の装飾で共に使用する物とカーペットの調和 (419-420)

第4編 商用の調度用タペストリーとカーペット

第1章 商用の調度用タペストリー (421)

第2章 商用のカーペット (422-428)

- (1) 明暗法によるカーペット (422-425)
- (2) 平面彩色法によるカーペット (426-427)
- (3) 明暗法と平面彩色法の間の方法によるカーペット (428)

第5編 モザイク

単一章 (429)

第6編 ゴシック大聖堂のステンドグラス

単一章 (430-438)

第Ⅲ部 布や紙への印刷

第1編 布への図柄の印刷

単一章 (439-445)

第2編 色紙への図柄の色刷り印刷

第1章 総論 (446-447)

第2章 人物, 風景, 大きな花などが書かれた壁紙に対する色彩の同時対比の法則 (448-449)

第3章 一色あるいは少ない色の図柄をもつ壁紙に対する色彩の同時対比の法則 (450-453)

第4章 壁紙の縁に対する色彩の同時対比の法則 (454-500)

第3編 色紙への活字の印刷または文字の手書き

第1章 序論 (501-505)

第2章 拡散昼光下で読む場合の色の組合せ (506-519)

9種の色紙への印刷例 (506-516)

- (1) 数分間読む場合 (506-517)
- (2) 数時間読む場合 (518-519)

第3章 人工光下で読む場合の色の組合せ (520)

第Ⅳ部 彩色図版における一様彩色法

第1編 地図の彩色

単一章 (521-526)

図版33 地図の彩色 (524)

第2編 挿絵の彩色

単一章 (527-539)

第Ⅴ部 ある程度の大きさをもつ着色物の配置

第1編 建築における色彩

第1章 エジプト建築における色彩 (540-545)

第2章 ギリシャ建築における色彩 (546-548)

第3章 ゴシック建築における色彩 (549-555)

第2編 室内装飾への応用

序言 (556)

第1章 木の椅子に使用する布の組合せ (557-563)

第2章 絵画, 版画, リトグラフの額縁の組合せ (564-572)

第3章 教会内部の全体装飾 (573-581)

第4章 美術館の装飾 (582-583)

- (1) 絵画の美術館 (584)
- (2) 彫刻の美術館 (585-587)
- (3) 自然物の博物館 (588-589)

第5章 劇場のための色彩の選択 (590-591)

- (1) 桟敷席の下地 (592-595)
- (2) 桟敷席の前面 (596)
- (3) 劇場の天井 (597)
- (4) 緞帳について (598)

第6章 家および宮殿の室内装飾における配色について (599-600)

§ 1 布や壁紙を使用する際の室内装飾における配色

- (1) 腰壁 (壁の腰の部分) (601-603)
- (2) 壁紙 (604-626)
- (3) コーニス (天井と壁の境目の軒蛇腹) (627)
- (4) 腰壁の前に置かれた椅子 (628-633)
- (5) 窓とベッドのカーテン (634)
- (6) 扉 (635-636)
- (7) 窓 (637)
- (8) 絨毯 (638-639)
- (9) 絵画 (640-644)

§ 2 室内の壁に木や大理石やスタッコ (化粧漆喰) が使われている場合, あるいは木や石や漆喰の壁に絵が描かれている場合の, 室内装飾における配色 (645-655)

- (1) 板張りの室内 (645-647)
- (2) 大理石張りの室内 (648-650)
- (3) スタッコ張りの室内 (651-652)
- (4) 板張りまたは何らかの漆喰張りで, 多くの色が使われた室内 (653-655)

第3編 服装への応用

序言 (656)

第1章 男性の服装 (657-680)

§ 1 衣服の布の色の強調ないし洗練という点から見た対比の利点

- (1) 補色を使用した制服 (658-661)
- (2) 補色ではないが対比の強い色を使用した制服 (662-665)
- (3) 単色と白を使用した制服 (666-667)
- (4) 白を含む2色を使用した制服 (668-669)
- (5) 黒を含む2色を使用した制服 (670)
- (6) 白と黒を含まない2色以上を使用した制服 (671)
- (7) 似た色相でニュアンスの異なる色を使用した制服 (672)
- (8) 同一色相の2つの色調を使用した制服 (673)
- (9) 単色を使用した制服 (674)

§ 2 多色の制服における種々の色の面積比の影響 (675-677)

§ 3 衣服の布の見た目の清潔さにおける対比の利点 (678-680)

この章の付録 1838年のフランス軍隊の制服についての注記 (パラグラフ番号なし)

第2章 女性の服装

序言 (681)

§ 1 白い肌の女性の服装における配色 (682)

- (1) 白い肌の女性の2つの典型的タイプの区別 (683-684)
- (2) 髪の色と帽子や髪飾りの色との関係 (685)
- (3) 肌の血色とそれに接するドレープの色との関係 (686-694)
- (4) 帽子や髪飾りの色と肌に反射する色光との関係 (695-724)

§ 2 赤褐色の肌の女性の服装における配色 (725)

§ 3 黒あるいはオリーブ色の肌の女性の服装における配色 (726-727)

想定1 画家が肌の色を際立たせたい場合 (728)

想定2 画家が肌の色を目立たなくしたい場合 (729-730)

第4編 園芸への応用

序言 (731-732)

第1小編 色彩の同時対比の法則の園芸への応用

第1章 花の色を美しく見せるように、庭を飾る植物を最適に配列する技術 (733-748)

序言 (733-734)

§ 1 対比の調和に関連する花の組合せ

- (1) 色相對比の調和に関連する花の組合せ (735-740)
- (2) 色調対比の調和に関連する花の組合せ (741)
- (3) 類似色相の対比に関連する花の組合せ (742-744)

§ 2 類似の調和に関連する花の組合せ

- (1) 類似色調の調和に関連する花の組合せ (745-746)
- (2) 類似色相の調和に関連する花の組み合わせ (747-748)

第2章 葉の色を美しく見せるように、庭を飾る木を最適に配列する技術 (749-751)

第3章 花の色を考慮したときに、組合せ可能な植物の例 (752-766) 図版34～39 花壇の配置 (753-760)
他に、前出の図版5～31 (配色例の図版) も参照される

第4章 葉の色を考慮したときに、組合せ可能な植物の例 (767)

第2小編 花壇における植物の配置と植付け

序言 (768-770)

第1章 植物の列 (771-773)

- (1) いわゆるスクリーンとしての植物の列 (774-777)
- (2) 花壇の構成要素となる植物の列 (778-781)

第2章 同一種からなる植込み (782-785)

第3章 多種混在型の植込み (786)

§ 1 孤立した多種混在型の植込み (787-789)

§ 2 従属関係のある多種混在型の植込み (790-805)

- (1) 一般論 (790-793)
- (2) 従属関係のある多種混在型の植込みの植付けにおいて守るべき規範の提示 (794-805)

図版40 (白黒) 植込みの配置 (797)

第4章 上記2章で主張した植付け方法の基となる原理 (806-828)

第VI部 着色物の色彩を、個々にかつ相互に関連すると考えて判定する場合の、前述の原理の介入

序言 (829-834)

第1篇 任意の着色物について、その美しさ、色の純度、そして同一色階に属する色調の等歩度性を判定する場合の、色彩の同時対比の法則の介入

序言 (835)

第1章 同じ色の2つの色見本の比較 (836)

第2章 色の比較における周辺色の影響 (837-838)

第3章 タペストリーやカーペットに使用される羊毛や絹の、ほとんどの色相の明色と暗色に対する対比の影響 (839-841)

第4章 1つの色階における色調の等歩度性を対比の法則により確認する方法 (842)

第2編 種々の視覚芸術の作品を色材によって判定する場合の、色彩の同時対比の法則の介入

序言 (843)

第1章 2色配色への再考 (844-857)

第2章 多色配色への再考 (858-859)

第3章 様々な芸術に使用される色材の物理的状態と作られる作品の特性との、相互の影響についての再考 (860)

§ 1 いわば無限に細分可能な色材を用いる絵画に対する色材の物理的状態と、作られる作品の特性の考察 (861)

(1) 明暗法に基づく絵画 (862-869)

(2) 一様彩色法に基づく絵画 (870-872)

§ 2 大きさの見分けられる色材を用いる視覚芸術に対する色材の物理的状態と、作られる作品の特性の考察 (873)

(1) 明暗法の絵画に対応するタペストリー、カーペット、モザイク、ステンドグラス (874-885)

(2) 一様彩色法の絵画に対応するタペストリー、カーペット、モザイク、ステンドグラス (886-890)

第3編 有色ないし無色の色材を用いた様々な視覚芸術に共通する原理

序言 (891-897)

第1章 量感の原理 (898-899)

第2章 形態の原理 (900-902)

第3章 安定性の原理 (903-904)

第4章 色の原理 (905)

第5章 多様性の原理 (906-908)

第6章 対称性の原理 (909-914)

第7章 反復の原理 (915-919)

第8章 一般的な調和の原理 (920-926)

第9章 対象物と使用目的との適合性の原理 (927-932)

第10章 明視性の原理 (933-935)

第4編 芸術作品を鑑賞する人の心のあり方

単一章 (936-938)

著者の研究歴概説と本書の最終結論

(939-957)

対比に関する最新の考察

§ 1 多くの自然現象の観察における対比の考察 (959-964)

§ 2 大きさの異なる2つの隣接物に関する対比の考察 (965-966)

§ 3 聴覚、味覚、臭覚に対し、対比が考えられるか (967-992)

§ 4 今後対比の研究は、多くの知的現象に広がるように思える (993-1010)

おわり

(下訳：宮崎敬子)